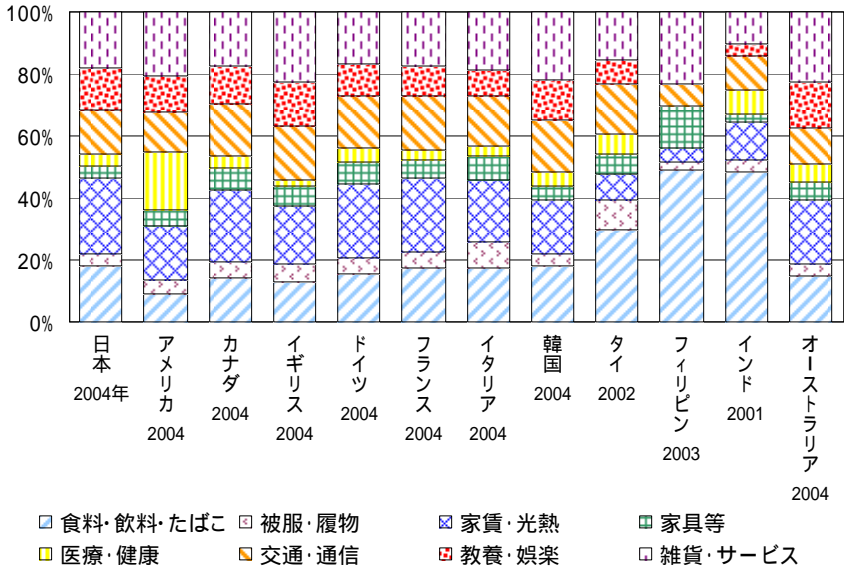


10-1 家計消費支出の分布



▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第10-6-2表 国内家計最終消費支出の分布」(p.241)を参照。

家計消費支出は、国内総支出の6割近くを占めているため、その国の国民生活や産業活動の実態を把握するのに参考となる指標である。特に消費支出に占める飲食費の割合（エンゲル係数）は、一般に所得が高いほど低い値となることが知られており、実際、国内総支出額（USドル換算値）が高い国ほど低い割合になっていることが分かる。

日本のエンゲル係数は、1970年代では30%ほどだったのが、2004年では18.1%に低下している。これは、所得水準の向上や余暇時間の増大、消費の多様化等によって、住居関係費や教養・娯楽費等の割合が高くなってきているためであり、先進国にこの傾向が強く現れている。

先進諸国の食料・飲料・たばこの占める割合は、10～20%前後と低いが、東南アジアなどは高く、特にフィリピン、インドは5割を占める。また、家賃・光熱費に関しては、逆に先進諸国で高く、東南アジア諸国で低い。